静岡医療センター麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

① はじめに

専門研修基幹施設である独立行政法人国立病院機構静岡医療センター（以下、医療センター)、近隣の連携施設である静岡県立静岡がんセンター、順天堂大学医学部附属静岡病院、沼津市立病院で必要症例数を研修し、静岡県立総合病院、浜松医科大学医学部附属病院、伊東市民病院、国立病院機構東京医療センター、慶應義塾大学病院、杏林大学医学部付属病院、聖マリアンナ医科大学病院、北里大学病院、東京医科大学病院、湘南鎌倉総合病院、埼玉県立小児医療センター、田附興風会医学研究所北野病院、昭和医科大学病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

② 特徴

このプログラムの特徴は急性期医療と地域医療の研修で、研修修了後は静岡県内の希望する施設で就業が可能となる。現在までに「ふじのくに麻酔科専門医研修プログラム」（多施設ローテーションと県内就業）の後期研修医の研修実績がある。若手医師の育成に賛同した病院群によって構成されたプログラムで、学閥のない自由な雰囲気の中で我々は優秀な仲間を育成し、専門知識や技術を学びながら地の利を活かして自分の時間を有意義に過ごす「ライフ＆ワーク・バランス」の実現を目指す。

③　プログラム参加者の要件

１）前期研修（2 年間）が終了した医師：原則卒後 3 年目

２）既に後期研修を他院で始めているが、当プログラムに参加を希望する医師

④　研修内容

研修のうち最低 1 年間は専門研修基幹施設の静岡医療センターにおいて、段階を踏んで、麻酔と全身管理、急変時対応を習得する。①麻酔管理症例は手術侵襲度が低い症例から高い症例へと習熟度に合わせて段階的に担当する。②周術期患者の観察と管理を重視し、術前～術中～術後を診ることで、侵襲が生体に及ぼす影響とその変化を知ることができ各種の病態への理解が深まる。研修では、まず一般麻酔で患者診察、評価、麻酔の考え方、手技などの基礎を学び、心大血管手術や緊急手術、集中治療研修で各種のショックや緊急事態の評価と初期対応の習得を目指す。

静岡がんセンターでは、日本最先端のがん手術の研修を行う。特に、各種の腹腔鏡下手術、分離肺換気症例を多数経験でき、多職種によるチーム医療が実践されている。

研修 1 年目、2 年目は静岡医療センター、静岡がんセンターで基礎的知識、考え方、手技を習得する。習得すべき専門知識、技能は、麻酔科専攻医研修マニュアルに記載されている。技術面では、特に心肺蘇生、気道管理（困難気道管理を含む)、生体情報取得のためのカニューレ挿入（動脈穿刺、中心静脈穿刺、肺動脈カテーテルなど)、硬膜外穿刺、神経プロックなどの麻酔手技の習得を目指す。

静岡医療センター内にシミュレーションセンターを有しており、各種セミナーを優先的に受講可能である。（心肺蘇生、困難気道管理（DAM)、外傷、中心静脈穿刺、緩和ケア研修会など）

3. 専門研修プログラムの運営方針

①　運営

・各病院群で、最低6ヶ月は研修を行う。

・研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する。

専門研修基幹施設

静岡医療センター

病院群Ⅰ（静岡県東部地域）

静岡医療センター、静岡県立静岡がんセンター、順天堂大学医学部附属静岡病院、伊東市民病院、沼津市立病院

病院群Ⅱ（静岡県中西部地域）

静岡県立総合病院、浜松医科大学医学部附属病院

病院群Ⅲ（静岡県外）

国立病院機構東京医療センター、慶應義塾大学病院、杏林大学医学部付属病院、聖マリアンナ医科大学病院、北里大学病院、東京医科大学病院、湘南鎌倉総合病院、埼玉県立小児医療センター、田附興風会医学研究所北野病院、昭和医科大学病院

各施設の特徴

静岡医療センターでは、地域の急性期病院における一般的な手術および心臓血管外科手術、循環器救急を含む集中治療および周術期管理

静岡県立がんセンターでは、日本の最先端のがん治療と各種手術

順天堂静岡病院では急性期病院における各種手術および脳神経外科手術、ペインクリニック、緩和ケア

浜松医科大学病院では急性期病院における各種手術、集中治療、ペインクリニックを経験できる。

４年目に静岡県外施設での研修を行う。

静岡医療センターは地域医療支援病院として、地域の多くの施設と連携している。近隣施設からの紹介症例が多く年齢層も幅広いため、豊富な症例を体験できる。連携施設の指導体制は次項3に示す。

研修実施計画例

ローテーション例

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	医療センター	がんセンター	病院群Ⅰand/orⅡ	自由選択
B	がんセンター	医療センター	病院群Ⅰand/orⅡ	自由選択

上記のプログラム運営方針のもと研修状況を鑑み、また本人の希望も考慮して病院群から施設を選択する。病院群Ⅰの3施設は20㎞圏内にあり、転居せずに研修を行える。

静岡医療センターの例

週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
7:45～			週間術前症例検討	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ、抄読会			
8:25～	ICUカンファランス						
午前	手術室	手術室	手術室	※	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	※	手術室	休み	休み
16:00～		外科術前ｶﾝﾌｧﾗﾝｽ		心臓血管外科ｶﾝﾌｧﾗﾝｽ			
17:15～			症例検討（1回/月程度）				
当直			当直				

② 勤務

・当直またはオンコール（平日、土日祝日）：回数は面談の上、決定する。

・当直翌日（※）は、業務内容の軽減（国立病院機構就業規則による）

③ 教育、カンファランス

・多職種カンファランス：特殊症例の場合、麻酔科・集中治療部医師、当該診療科、関連診療科、看護部門（手術室、ＩＣＵ、病棟、医療安全管理師長など)、(必要に応じて臨床工学技士など）が参加しカンファランスを行っている。
・心臓血管外科：deathカンファランスを行っている。
・院内研修会：医療安全、院内感染対策、医療倫理は、職員の受講を必須としている。
教育研修委員会が中心となり年間計画を立て、学習の機会を提供している。
・**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記載されているように、学術活動を推奨している。
年間計画を立て、学会、研究会への参加を推奨している：静岡医療センターの場合は旅費は院内規定で支給あり（国内：2回/年）
・図書室あり。麻酔科医室、医局は無線ランを整備している。
文献検索：「メディカルオンライン」　「医学中央雑誌web」　「Clinical Key」
「UpToDate」

④　処遇

身分、給与、健康保険等の福利厚生制度、医師賠償責任保険、休日等、宿舎、学会費用など、原則として研修する施設の規定に従う。

4.研修施設の指導体制

①　専門研修基幹施設

独立行政法人国立病院機構静岡医療センター病院（以下，静岡医療センター）

研修プログラム統括責任者：小澤　章子
専門研修指導医：小澤　章子（麻酔、集中治療）
今津　康宏（麻酔，集中治療）
専門医：波里　純子（麻酔，集中治療）
認定施設番号：866号
特徴：当院は「循環器」，「がん医療」，「救急」及び「総合医療」を柱として地域の医療ニーズに応えている地域医療支援病院である。「地域循環器病センター」として静岡県東部の「循環器病」に関する中核病院に位置付けられており、心臓血管外科の症例も豊富で、虚血性心疾患,血管疾患,循環器疾患の診療治療を経験できる。救急医療体制も充実しており、心臓血管外科は静岡県東部全域より救急を受け入れている。

②　専門研修連携施設(A)

静岡県立静岡がんセンター（以下，がんセンター）

研修実施責任者：安藤　憲興
専門研修指導医：安藤　憲興（麻酔、集中治療）
玉井　直（麻酔、集中治療）
江間　義朗（麻酔、ペインクリニック）
籾山　幸紀（麻酔）

長崎　晶美（麻酔）
小石川　亜矢（麻酔）
山下　麻子（麻酔）
井出　利恵（麻酔）
山口　貴章（麻酔）
専門医　柳田　大輔（麻酔）
中島　祐人（麻酔）

麻酔科認定病院番号：972号

特徴：全国第3位のがん手術件数を実施、原則として成人がんの手術のみを行う。代表的な手術は以下のとおりである。
ダヴィンチ・ヒノトリ手術（直腸・結腸、前立腺・腎、胃、膵臓、子宮、肺・縦郭、咽頭、食道）　週15件以上
胸部外科（肺・縦郭・食道）　週10件程度
開頭術　週2件程度（覚醒下脳腫瘍手術　月2件程度）

静岡県立総合病院

研修実施責任者:　渥美　和之
専門研修指導医:　渥美　和之（麻酔）
藤井　俊輔（麻酔）
森本　恵理子（麻酔、集中治療）
柳田　京子（麻酔）
高良　麻紀子（麻酔）
航　尚子（麻酔）
中右　麟太郎（麻酔）
小笠原　孝（麻酔）
上中　龍（麻酔）
杉村　翔（麻酔、集中治療）
横山　順一郎（麻酔）

麻酔科認定病院番号274号

特徴：静岡県内有数の手術件数を誇っており、食道・肝胆膵手術、心臓血管外科、呼吸器外科などの難易度の高い手術が多く、ロボット手術や種々の経カテーテル手術など高度先端医療も積極的に取り入れられています。超高齢者やハイリスク患者の手術も多く、研修を行うことで豊富で多種多彩な麻酔症例を経験することができます。

浜松医科大学医学部附属病院（以下,浜松医科大学）



研修プログラム統括責任者：中島芳樹
専門研修指導医：中島芳樹（麻酔，ペインクリニック，小児麻酔）
御室総一郎（麻酔，集中治療）

五十嵐 寛（麻酔，医学教育，ペインクリニック）
栗田忠代士（麻酔，心臓血管麻酔）
谷口美づき（麻酔，産科麻酔，ペインクリニック）
八木原正浩（麻酔，小児麻酔）
青木善孝（麻酔，集中治療）
内崎紗貴子（麻酔）
成瀬 智（麻酔，産科麻酔）
川島信吾（麻酔，心臓血管麻酔，医療安全）
加藤弘美（麻酔、集中治療）
木村哲朗（麻酔，ペインクリニック、緩和医療、区域麻酔）
小林賢輔（麻酔，心臓血管麻酔，集中治療）
佐藤恒久（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
鈴木興太（麻酔，ペインクリニック、区域麻酔）
和久田千晴（麻酔，小児麻酔）
西本久子（麻酔）
大嶋進史（麻酔，ペインクリニック）
溝渕有助（麻酔，集中治療）
今井亮（麻酔，集中治療）

専門医：高木真奈（麻酔）
鈴木康仁（麻酔，集中治療）

麻酔科認定病院番号：158号

特徴：豊富な指導医が在籍する大学病院を中心に、手厚いサポート体制のもとで安心して研修を開始できます。若手のうちから多様かつハイレベルな症例に関わる機会が豊富で、基本的な麻酔管理から高難度手術の全身管理、術後疼痛管理まで、実践を通じて着実に臨床力を高めることができます。

さらに、麻酔科医が主体となる集中治療室での重症患者管理をはじめ、ペインクリニック、緩和医療、小児麻酔、産科麻酔・無痛分娩など、幅広いサブスペシャリティを横断的に経験できる環境が整っており、早期から自身の興味や専門性を深めることが可能です。

また、医療安全やシミュレーション教育を専門とする麻酔科医も在籍しており、体系的かつ実践的なトレーニングを受けながら、安全性と質の高い医療を学ぶことができます。

学会発表や論文執筆の機会も豊富に用意されており、臨床経験にとどまらず、学術的な視点　からもキャリア形成を支援する体制が整っています。日々の診療・教育・研究が一体となった環境の中で、確実な成長と将来の専門性の確立を目指すことができます。

東京医科大学病院

研修プログラム統括責任者：中澤　春政

専門研修指導医：中澤　春政（麻酔，集中治療，心臓麻酔）
大瀬戸　清茂（ペインクリニック，麻酔）
中澤　弘一（麻酔，集中治療）
合谷木　徹（麻酔，ペインクリニック，区域麻酔）
柿沼　孝泰（麻酔，心臓麻酔，産科麻酔）
関根　秀介（麻酔，集中治療）
魚島　直美（麻酔）
小野　亜矢（麻酔，心臓麻酔）
齋木 梨香子（麻酔）
鈴木 直樹（麻酔，小児麻酔，心臓麻酔）
栗田　健司（麻酔，心臓麻酔，小児麻酔，区域麻酔）
都築　有美（麻酔）
唐仁原　慧（麻酔）

麻酔科認定病院番号　28 号

特徴：好立地の施設で最先端の周術期医療にかかわり，安全で質の高い医療を実践しながら，麻酔科関連領域の研鑽を積むことができます．麻酔管理学，集中治療医学，ペインクリニック学の基礎を学び，麻酔科医にとって不可欠な知識・技術を身につけ，教育指導能力の獲得とチーム医療に必要な人間性やリーダーシップを身につけ，プロフェッショナルな麻酔科医になるための研修を提供します。

医療法人沖縄徳洲会　湘南鎌倉総合病院

研修プログラム統括責任者：倉橋清泰

専門研修指導医：　倉橋　清泰（麻酔全般、集中治療、生理学、基礎・臨床研究）
相野田　桂子（麻酔全般、心臓血管麻酔）
石川 亜希子（臨床麻酔）
太田　隆嗣（麻酔全般、心臓血管麻酔、集中治療）
今西　晶子（麻酔全般、小児麻酔）
菊池　佳奈（麻酔全般、小児麻酔、産科麻酔）
渡邊　至（麻酔全般）
春原　啓人（麻酔全般）
吉村　円花（麻酔全般）
黒澤 暁子（臨床麻酔）
勝井 真咲 アン（臨床麻酔）
館山　亜弥（麻酔全般）
西嶋　千絵（麻酔全般）
藤木　翔太（麻酔全般）
ヨナシロ　祥子（麻酔全般）

麻酔科認定病院番号: 1436号

麻酔科管理症例数：症例　8117

特徴：鎌倉市、横浜市、藤沢市という一大医療圏にまたがる地域の中核病院であり、徳洲会グループの中でもフラグシップ病院としての機能を担っています。去年、第8版にバージョンアップしたJCIを高い成績でクリアし、安全・安心な質の高い医療を提供しています。
麻酔科研修上の特徴を以下に列挙します。

- 豊富な手術件数とバランスのとれた手術内容で、麻酔研修（一般および特殊麻酔）を 3年間で終了させることができます。
- 定型的な心血管手術に加え、低侵襲心臓手術（MICS)、低侵襲カテーテル手術（TAVI, Mitral Clip, 左心耳閉鎖）へも積極的に関与しています。これらの研修を通じて循環管理の要点を習得できます。
- 心臓血管麻酔学会認定医兼JB-POT習得者が複数名おり、経食道心エコーの修得が容易にできます。
- 麻酔科は今の時代手術室だけに留まっていません。当院では、無痛分娩、陽子線治療を受ける小児の鎮静、カテ室での脳血管内治療（DSA)、婦人科の小線源治療など、手術室外の処置に積極的に関与しています。
- 緊急手術が豊富なことから、定型的な手術麻酔とは異なる応用力を身につけることができます。将来「麻酔科専門医です」と言うからには、このような対応を卒なくこなすことが求められます。
- 長年医育機関に勤務し、また学会教育委員を務めていた倉橋主任部長がプログラム統括責任者を務め、総合的に質の高い教育プログラムを提供しています。
- 医療の世界は屋根瓦式教育と言われていますが、専攻医の一つ下の瓦には、４倍近い倍率を潜り抜けてマッチングしてきたやる気に溢れる23人の研修医が収まっています。これの意味するところは、そのような研修医の直属の上司となる専攻医は、彼らに教えながら高いレベルで自身も成長できるということになります。

公益財団法人田附興風会医学研究所　北野病院

研修プログラム統括責任者：加藤　茂久

専門研修指導医：加藤　茂久（麻酔）
足立　健彦（麻酔、集中治療、無痛分娩）
宮崎　嘉也（集中治療）
黒嵜　明子（小児麻酔）
原　朋子　（麻酔）
前川　俊　（心臓血管麻酔、集中治療）
柚木　圭子（麻酔）
直井　紀子（麻酔）
高田　祥子（麻酔）

村田　裕　（麻酔）
至田　雄介（心臓血管麻酔、集中治療）
専門医：　成田　葉月（麻酔）
中辻　史織（麻酔）
松山　裕敬（麻酔）

麻酔科認定病院番号　65号

特徴：地域医療支援病院。大阪市北区で中心的な役割を果たす病院である。麻酔科管理で年間約４３００件の非常に多彩な手術を行っており、心臓血管外科、小児外科を含むほぼ全ての領域の手術麻酔を１４名の専門医の下で余裕を持って研修することができる。２０２３年度に手術室が４室増えて計１５室となり、西日本トップクラスの床面積を誇るハイブリッド手術室、心臓外科専用手術室が稼働し、TAVI手術も始まった。また２０２３年度より無痛分娩も開始し徐々に適応を拡大しつつある。

また専攻医の学会発表や院外研修を科として積極的にサポートしており機会は豊富である。日本集中治療医学会専門医研修認定施設、心臓血管麻酔専門医認定施設でもあるので、十分な集中治療研修、心臓血管麻酔研修を行うことができる。

専門研修指導医の所属人数（人）	本プログラム専門医研修指導医按分後の人数（人）
11	0.1

麻酔科管理症例数					
麻酔科管理全症例数	小児（6 歳未満）	帝王切開術	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科
4375	301	251	120	297	254

国立病院機構 東京医療センター

研修プログラム統括責任者：吉川　保

専門研修指導医：小林　佳郎　（麻酔）
吉川　保　（麻酔・ペインクリニック）
長田　大雅　（麻酔・集中治療）
櫻井　裕教　（麻酔・集中治療）
森　庸介　（麻酔・集中治療・心臓麻酔）
安村　里絵　（麻酔・集中治療・心臓麻酔･区域麻酔）
加藤　奈々子　（麻酔・産科麻酔）

吉武　美緒　　（麻酔）
茂田　宏恵　　（麻酔）
専門医：中川　布有加　（麻酔）
田中　浩平　　（麻酔）
肌附　里乃　　（麻酔）
伊瀬谷　沙　　（麻酔）

麻酔科認定病院番号　221号

特徴：東京医療センターは旧国立東京第二病院といわれた昭和43年から臨床研修指定病院に指定され、伝統的に医療従事者の教育研修に熱心な施設である。近年は地域との結びつきの強い急性期病院として、救命救急センター・地域がん診療連携拠点病院・東京都災害医療拠点病院・地域医療支援病院などの指定を受けるとともに、高度先進医療にも取り組んでいる。そして当センターの理念『患者の皆様とともに健康を考える医療の実践』を実行すべく、技術とシステムの改修に加え、診療・教育・研究を通して医療の質の向上を目指している病院である。

麻酔科としても、2016年から麻酔科術前外来を開設、2020年からAPSチーム、2021年から和痛チーム、2026年から集中治療チームが発足し、術前から術後まで周術期診療の核となるべく様々な取り組みを行っている。専門医以上のスタッフが多く、若手から中堅そしてベテランまでがバランス良く存在していることも特徴のひとつである。どの年代層も常に新しい事を取り入れ進化する努力を怠らないようにしている。臨床のみでなく、学会発表、論文投稿指導にも力をいれている。また医局の枠にとらわれず、約20年にわたって独自に麻酔科専門医を養成している歴史があり、国内外で活躍する当院麻酔科研修を終えた数多くの麻酔科医と交流する機会があるのも魅力の一つである。

昭和医科大学病院

研修実施責任者：大江　克憲

専門研修指導医：大江　克憲（心臓麻酔、小児心臓麻酔、集中治療）
加藤　里絵（産科麻酔、手術麻酔）
小谷　透（集中治療）
米良　仁志（ペインクリニック）
尾頭　希代子（呼吸管理、心臓麻酔、集中治療）
細川　幸希（産科麻酔、手術麻酔）
小林　玲音（ペインクリニック、手術麻酔）
石田　裕介（心臓麻酔、手術麻酔、集中治療）
五十嵐　友美（集中治療）
原　詠子（ペインクリニック、手術麻酔）
泰地　沙季（手術麻酔）
佐々木　友美（手術麻酔）

五反田　倫子（産科麻酔、手術麻酔）
落合　弦（産科麻酔、手術麻酔）
飯島　香子（産科麻酔、手術麻酔）
髙橋　有里恵（小児心臓麻酔、手術麻酔）
羽二生　毬子（手術麻酔）

麻酔科認定病院番号：33号

特徴：手術症例が豊富で専門医取得に必要な特殊症例が当施設で研修できます。食道手術、肝臓手術、呼吸器外科手術などの麻酔管理を十分に経験でき、心臓血管外科も成人と小児の両方を数多く行っています。手術麻酔に加えてペインクリニック、無痛分娩（産科麻酔）、集中治療、緩和医療などのサブスペシャルティの研修も可能です。多職種による術前外来も開設しており、専門医が習得すべき周術期管理をバランス良く学べます。

順天堂大学医学部附属静岡病院（以下、順天堂静岡病院）

研修実施責任者：尾前 毅

専門研修指導医：尾前 毅　（心臓血管麻酔）
洪 景都　（麻酔一般，ペインクリニック）
櫻庭 園子　（麻酔一般、区域麻酔）
山﨑　翔　（麻酔一般）
八子　一　（麻酔一般）

専　門　医：上田　恩来　（麻酔一般）

麻酔科認定病院番号　422 号

特徴：静岡県東部で 3 次救急を担う救急救命センター、総合周産期母子医療センター、新生児センター、脳卒中センター、がん治療センターを持つ地域の高度医療を担う中核病院です。また、静岡県東部ドクターヘリ運航拠点病院であり、周産期救急症例を含む多彩な緊急手術症例が豊富です。

伊東市民病院

連携施設責任者：富樫 秀彰（臨床麻酔・ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：991 号

特徴：静岡県伊豆半島東部の二次救急医療など地域医療の中核病院です。
病床数 250 床、一般 194 床、HCU14 床
回復期 42 床。手術室はゆとりあるスペースで 4 室。
首都圏からの移動は 2 時間ほど。
屋上ヘリポートや一部病室からは伊東湾を望むことができ職員の福利厚生施設として院内に源泉かけ流し温泉大浴場を利用することができます。

慶應義塾大学病院

〒160 － 8582　東京都新宿区信濃町35　　TEL：03 － 3353 － 1211

URL：http://www.hosp.keio.ac.jp/

研修プログラム統括責任者：山田　高成

専門研修指導医：

山田　高成　（麻酔、集中治療）	星野　麗子　（麻酔、ペインクリニック）
小杉　志都子（麻酔、ペインクリニック）	若宮　里恵　（麻酔、産科麻酔）
三笠　裕美　（麻酔、小児麻酔）	鈴木　悠太　（麻酔、集中治療）
福田　陽子　（緩和医療）	戸谷　遼　（麻酔、心臓麻酔）
御園生　与志（麻酔）	生駒　祐介　（麻酔、集中治療）
大橋　夕樹　（麻酔、産科麻酔）	藤田　治人　（麻酔、集中治療）
壽原　朋宏　（麻酔、集中治療）	岡本　泰治　（麻酔、集中治療）
増田　祐也　（麻酔、区域麻酔）	小山　祐果　（麻酔、小児麻酔）
若泉　謙太　（麻酔、ペインクリニック）	関谷　由希　（麻酔）
伊原　奈帆　（麻酔、緩和医療）	加藤　英恵　（麻酔、小児麻酔）
阪本　浩平　（麻酔）	松沢　真奈　（麻酔、産科麻酔）
寅丸　智子　（麻酔、小児麻酔）	森川　紗希　（麻酔）
細井　卓司　（麻酔）	

専門医：

岡本　善基　（麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号　：　3号

特徴：経皮的心臓弁膜症手術を含む様々な先進的手術、臓器移植あるいは種々の合併症を有する患者の手術、多科合同手術など、麻酔管理の質が問われる症例が数多くあり、入念な麻酔計画を立て専門研修指導医のサポートの下で周術期管理を経験出来ます。抄読会や勉強会、シミュレーション教育も積極的に行い、様々な局面に的確に対応できる知識や技術の習得に日々努めています。必要経験症例の手術件数も非常に多く、年次や経験に応じて目標を設定して研修をサポートしています。

2025年度麻酔科管理症例：9461例

経験必須症例	年間施設症例数
小児（6歳未満）の麻酔	428症例
帝王切開術の麻酔	304症例
心臓血管外科の麻酔　Ⅰ群 （腹部大動脈手術を含む）Ⅱ群	218症例 466症例
胸部外科手術の麻酔	619症例
脳神経外科手術の麻酔	282症例

杏林大学医学部付属病院

研修プログラム統括責任者：森山　潔

専門研修指導医：森山　潔　（集中治療）

萬　知子　　（手術麻酔全般・医療安全）
鎮西　美栄子　（緩和医療）
徳嶺　譲芳　　（手術麻酔全般・医療安全）
関　　博志　　（手術麻酔全般・周術期管理）
小谷　真理子　（集中治療）
藤井　範子　　（心臓麻酔）
渡辺　邦太郎　（区域麻酔・ペインクリニック）
本保　晃　　（周術期管理・産科麻酔）
足立　智　　（心臓麻酔）
安藤　直朗　　（手術麻酔全般）
澤田　龍治　　（区域麻酔・ペインクリニック）
専門医：朽名　佳代子　（手術麻酔全般・緩和医療）
江間　章悟　　（産科麻酔・小児麻酔）
吉川　貴紘　　（手術麻酔全般）
元山　宏展　　（手術麻酔全般・集中治療）
秋澤　千尋　　（手術麻酔全般・ペインクリニック）
小野　元彰　　（手術麻酔全般・集中治療）
川船　麦　　（手術麻酔全般）
齊藤　由希子　（手術麻酔全般・集中治療）
平井　茉莉　　（手術麻酔全般・ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号 147号

特徴：東京都多摩地区の基幹病院です。多摩地域唯一の大学病院の本院で，年間約7,000 件超の麻酔科管理症例があり、麻酔科専門医に必要な手術症例を偏りなく研修することができます。ロボット手術や大動脈ステント、TAVI、Mitra Clip といった先進医療や高難度手術の症例も経験可能です。術前診察外来、術後疼痛管理チーム、集中治療、無痛分娩、ペインクリニックの症例も豊富です。手術麻酔に限らず、周術期管理を通して、患者の安全に寄与できる麻酔科医の育成を目指しています。

聖マリアンナ医科大学病院

研修プログラム統括責任者：井上荘一郎

専門研修指導医：井上　荘一郎（臨床麻酔,術後鎮痛,ペインクリニック）
坂本　三樹（心臓血管,小児,周産期）
清野　雄介（集中治療）
小幡　由美（心臓血管,小児）
田澤　利治（ペインクリニック,緩和）

升森　泰（区域麻酔, 臨床麻酔）
平　幸輝（臨床麻酔, 術後鎮痛）
横塚　牧人（臨床麻酔）
中山　知沙香（臨床麻酔）
浜辺　宏介（臨床麻酔）
伊東　裕美（集中治療）
内藤　善介（臨床麻酔）
奥田　紘隆（臨床麻酔）
野村　浩清（臨床麻酔, ペインクリニック）
髙木　摩衣（臨床麻酔）
玉城　ゆり子（臨床麻酔）

麻酔科認定病院番号：100号
特徴：豊富な症例数，ペイン，集中治療のローテーション可能

北里大学病院
プログラム責任者：新井　正康
専門研修指導医：新井　正康（集中治療、呼吸療法）
金井　昭文（ペインクリニック、緩和医療）
安藤　寿恵（心臓血管麻酔）
松田　弘美（小児麻酔）
杉村　憲亮（心臓血管麻酔、集中治療）
吉野　和久（麻酔、急変対応）
日向　俊輔（産科麻酔）
西澤　義之（集中治療、呼吸療法、急変対応）
阪井　茉有子（集中治療、呼吸療法、急変対応）
藤田　那恵（産科麻酔）
山下　敦（小児麻酔、心臓血管麻酔）
関田　昭彦（心臓血管麻酔）
村松　明日香（手術麻酔、呼吸療法）
高橋　祐一朗（ペインクリニック、緩和療）
近藤　弘晃（産科麻酔、心臓血管麻酔）
永井　亜依（集中治療、呼吸療法）
尾崎　温（集中治療）

専門医：宍井　美穂
勝池　亜希子
堀紗　友夏
伊藤　恵以
秋田　優美

麻酔科認定病院番号　78号

特徴：一週間の業務で，術前外来～手術麻酔～術後集中治療管理という一連の周術期管理をすることで，「患者目線の麻酔管理」「予後を意識した術中管理」を研修する。成人・小児補助人工心臓植え込み手術を始めハイレベルな心臓血管手術にも対応している。周産期全般に寄与する産科麻酔（無痛分娩管理，帝王切開，産科的処置）での 3 か月研修，ペインクリニック，緩和医療といった病棟併診業務，病棟発症の敗血症など院内重症者の初療と救命を目的とした活動である Rapid Response Team の研修を行う．同一施設内で小児麻酔、心臓血管麻酔、各種サブスペシャル領域のハイレベルな研修が可能なのが当院の特徴である。専攻医教育の一貫として専用施設を使用し、急変対応シミュレーションを開催している。

麻酔管理症例数（2025年度実績）：8503件（全身麻酔7403件）

	症例数
小児（6歳未満）の麻酔	396 症例
帝王切開術の麻酔	402 症例
心臓血管手術の麻酔	448 症例
胸部外科手術の麻酔	278 症例
脳神経外科手術の麻酔	217 症例

埼玉県立小児医療センター

研修実施責任者：蔵谷　紀文

専門研修指導医：蔵谷　紀文　（麻酔・小児麻酔）
濱屋　和泉　（麻酔・小児心臓麻酔）
古賀　洋安　（麻酔・小児麻酔）
伊佐田　哲朗　（麻酔・小児麻酔）
小嶋　大樹　（麻酔・小児麻酔）
大橋　智　（麻酔・小児麻酔）
駒崎　真矢　（麻酔・小児麻酔）
高田　美沙　（麻酔・小児麻酔）
坂口　雄一　（麻酔・小児麻酔）

藤本　由貴　（麻酔・小児麻酔）
鴻池　利枝　（麻酔・小児麻酔）
専門医：影山　翔一　（麻酔・小児麻酔）

麻酔科認定病院番号　399号

特徴：研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能です(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。さいたま新都心駅と北与野駅からペデストリアンデッキで直接アクセス可能です。

麻酔科管理症例　3908例（2025年度）

沼津市立病院

プログラム責任者　　：稲村　実穂子
専門研修指導医　　：稲村　実穂子（麻酔）
麻酔科認定病院番号　：54号

特徴：当院は静岡県東部地域の中核病院として、ドクターヘリポート・救急ワークステーションを持つ三次救命救急センターを運営し、専門医療および救急診療に携わっている。
24の診療科と326床の入院病床を有しており、小児外科・産科の症例も多く、ダ・ヴィンチを使用した最先端手術や0歳児からの腹腔鏡手術も行っている。
特殊麻酔の症例数も十分に経験でき、豊富な症例の経験ができる施設となっている。

5. 募集定員

４名

（＊募集定員は，4年間の経験必要症例数が賄える人数とする．複数のプログラムに入っている施設は，各々のプログラムに症例数を重複計上しない）

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2025年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，静岡医療センター麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である。

静岡医療センター　麻酔・集中治療科部長　小澤章子
静岡県駿東郡清水町長沢762-1
TEL 055-975-2000
E-mail：ozawa.akiko.hz@mail.hosp.go.jp
Website：https://shizuoka-mc.hosp.go.jp/

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

１）十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
３）医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8.専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習、２）臨床現場を離れた学習、３）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9.専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導の元、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA1～2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

10.専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① **形成的評価**

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

③　**総括的評価**

研修プログラム管理委員会において、専門研修 4 年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11.専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

12.専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13.専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

①　**専門研修の休止**

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める。

② **専門研修の中断**

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ **研修プログラムの移動**

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14.地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての順天堂静岡病院、浜松医科大学病院、静岡など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。